研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

研究データ利活用協議会

2020年12月

研究データ利活用協議会事務局

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

- RDUFとは？
- これまでの活動実績
- 小委員会について
- 入会のご案内

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

- RDUFとは？
- これまでの活動実績
- 小委員会について
- 入会のご案内

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

RDUFについて

◆協議会の目的

オープンサイエンスの推進に向けて、研究データの利活用を進める関係者により個々の組織や分野を超えた情報共有や議論を行う。

◆経緯

- ジャパンリンクセンターが行った「研究データへのDOI登録実験プロジェクト」（2014年10月～2015年10月）を通して、分野を横断した研究データ担当者コミュニティが誕生。また、得られた知見をとりまとめた「研究データへのDOI登録ガイドライン」作成。

- データ利活用に係る議論をさらに促進するため、2016年6月3日にボトムアップの組織として「研究データ利活用協議会」設立。

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

RDUFについて

◆会員

- 個人会員（162名）
  研究者（データ提供者、データ利用者）大学・研究機関のデータリポジトリ関係者、図書館員など幅広い分野から参加。
- 機関会員（7機関）
  RDUFの目的に賛同し、活動に貢献する企業又は団体等。

◆企画委員会

RDUFの運営を効率的かつ円滑に推進するため設置。企画委員会を開催し、年度ごとの活動方針や活動総括の策定、機関会員入会の審査などを行う。

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

RDUFについて

◆活動内容

メーリングリストによる議論・情報交換、シンポジウムや研究会の開催、小委員会による成果物作成など。

◆令和2年度の活動方針

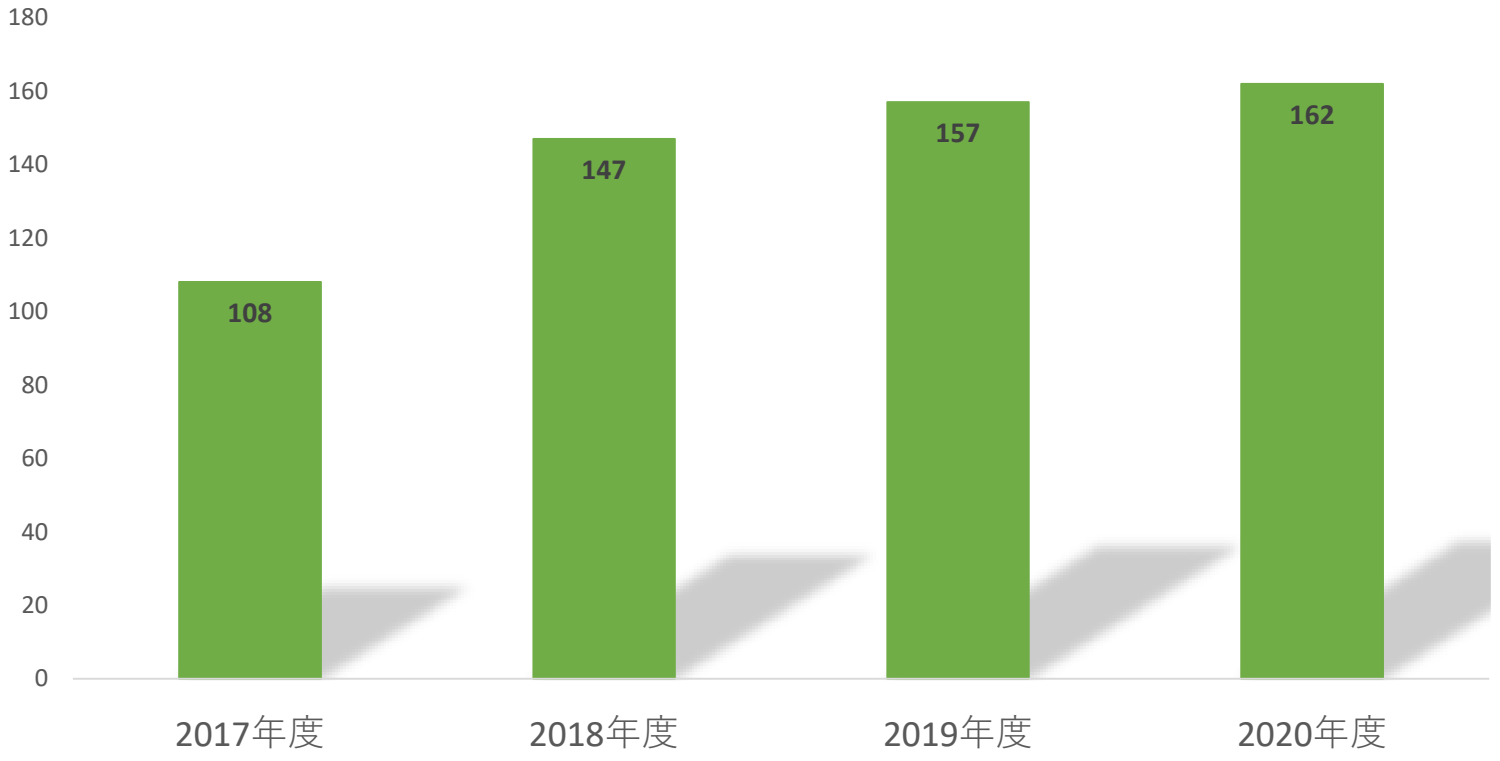
1. 様々な知見やユースケースを共有し、関係者間のネットワークを構築・強化するための場をつくる。

2. 参加機関の現場の抱える関心事などについて検討し、その結果を「研究データ利活用協議会」の成果物（ガイドライン、ノウハウ集、事例集など）としてまとめることを目指す。

3. 普及・広報活動を強化し、「研究データ利活用協議会」のプレゼンス向上を図る。

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

個人会員数推移



現在の個人会員数は162名

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

機関会員（７機関）

国立研究開発法人 科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency

国立研究開発法人 物質・材料研究機構 National Institute for Materials Science

千葉大学附属図書館 CHIBA UNIVERSITY

Academic Link 千葉大学アカデミック・リンク・センター

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 NII National Institute of Informatics

国立国会図書館 National Diet Library, Japan

国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 JAEA Japan Atomic Energy Agency

国立研究開発法人 情報通信研究機構 NICT

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

令和2年度企画委員（敬称略）

青木　学聡（委員長）	名古屋大学
南山　泰之（副委員長）	情報・システム研究機構　国立情報学研究所
芦野　俊宏	東洋大学
中島　律子	科学技術振興機構
熊崎　由衣	日本原子力研究開発機構
鈴木　宏子	千葉大学
武田　英明	情報・システム研究機構　国立情報学研究所
田辺　浩介	物質・材料研究機構
中川　透	国立国会図書館
能勢　正仁	名古屋大学
林　和弘	文部科学省
福田　和代	海洋研究開発機構
松下　智裕	奈良先端科学技術大学院大学
村山　泰啓	情報通信研究機構

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

- RDUFとは？
- これまでの活動実績
- 小委員会について
- 入会のご案内

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

平成28年度

・平成28年6月3日設立
・Webサイトやメーリングリストを開設

実施シンポジウム・研究会一覧
公開キックオフミーティング
研究会（第1回） （RDA Plenary 8 Meeting 等参加報告）
研究会（第2回） （第2回SPARC Japanセミナー 2016との共催）
公開シンポジウム（サイエンスアゴラ内） 「研究データの利活用の未来－オープンサイエンスの実現手段－」
（「第1回CODHセミナー Big Data and Digital Humanities」後援）
研究会（第3回） 「科学データ研究会・WDS国内シンポジウム（第6回）」との共催

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

平成29年度

・RDUFの運営規則や参加規約の成立、企画委員会発足
・小委員会活動開始、3つの小委員会が設立

実施シンポジウム・研究会一覧
RDUF公開シンポジウム ～オープンサイエンスを巡る世界の最新動向～
第1回SPARC　Japanセミナー2017　（共催） 「図書館員と研究者の新たな関係：研究データの管理と流通から考える」
研究会（第１回） 「デジタルアーカイブ」と「研究データ」の出会いシンポジウム ～データの保存と活用へ、ライブラリアンとアーキビストの挑戦～
平成29年度名古屋大学宇宙地球環境研究所研究集会　科学データ研究会・WDS国内シンポジウム（共催）

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

平成30年度

・Japan　Open　Science　Summit（JOSS　2018）に参加
・小委員会テーマを募集し、新たに一つの小委員会設立
・既存の小委員会については、活動期間延長、再設置

実施シンポジウム・研究会一覧
Japan　Open　Science　Summit（JOSS　2018）参加
公開シンポジウム ～研究データ利活用のさらなる促進のために～

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

令和元年度

・RDAのMs. Hilary Hanahoe氏を招き、RDA × RDUF Meetingを開催
・Japan Open Science Summit（JOSS 2019）に参加
・小委員会審査期間を通年に変更

実施シンポジウム・研究会一覧
RDA × RDUF Meeting
Japan Open Science Summit（JOSS 2019）参加
公開シンポジウム ※新型コロナウィルス感染防止のため、予定していたプログラムの一部をWeb掲載

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

令和2年度

・小委員会一件の活動期間延長
・公開シンポジウムをオンラインにて開催
・専門図書館協議会機関誌「専門図書館」300号にてRDUF紹介記事の寄稿

実施シンポジウム・研究会一覧
Japan　Open　Science　Summit（JOSS　2020）開催中止
公開シンポジウム※初のインライン開催

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

- RDUFとは？
- これまでの活動実績
- 小委員会について
- 入会のご案内

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

小委員会とは

◆設置の経緯

研究データ利活用について議論するResearch Data Alliance（RDA）に倣って、有志による議論・意見交換を行い、研究データの利活用に向けて提言や指針をまとめる場として設置。

まとめられた提言などは成果物として公開し、活用を図っていく。
RDUF会員であれば参加可能。

◆活動内容

グループ討議、全体討議、外部発表 等

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

小委員会の設置

◆小委員会の設置

小委員会で自らが先導して検討する意志を持つＲＤＵＦ会員であれば誰でも提案可能。

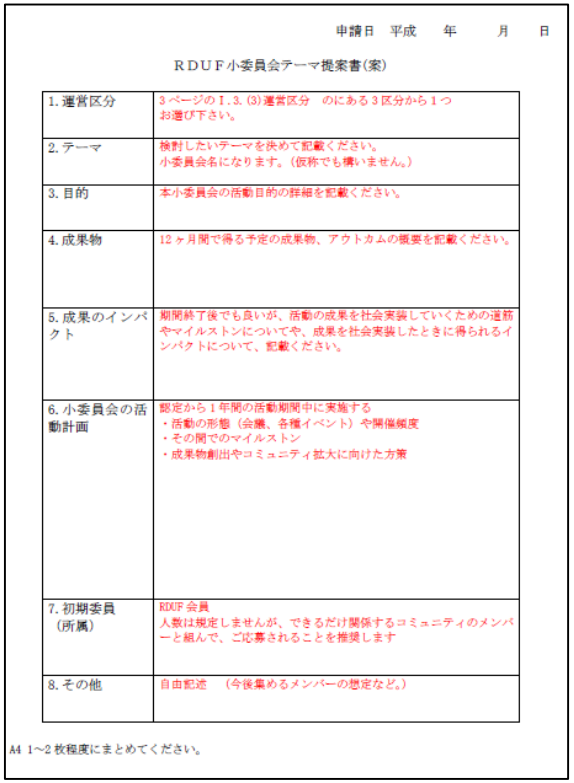
（事前にコアメンバーを組んでからの応募を推奨）

◆設置要件

小委員会募集要項の内容を踏まえ、規定の提案書様式に則って応募。

下記に掲載

https://japanlinkcenter.org/rduf/subcommittee/index.html



申請日　平成　　年　　月　　日

RDUF小委員会テーマ提案書(案)

1. 運営区分	3ページの1. 3. (3)運営区分　のにある3区分から1つお選び下さい。
2. テーマ	検討したいテーマを決めて記載ください。 小委員会名になります。(仮称でも構いません。)
3. 目的	本小委員会の活動目的の詳細を記載ください。
4. 成果物	12ヶ月間で得る予定の成果物、アウトカムの概要を記載ください。
5. 成果のインパクト	期間終了後でも良いが、活動の成果を社会実装していくための道筋やマイルストンについてや、成果を社会実装したときに得られるインパクトについて、記載ください。
6. 小委員会の活動計画	認定から1年間の活動期間中に実施する ・活動の形態（会議、各種イベント）や開催頻度 ・その間でのマイルストン ・成果物創出やコミュニティ拡大に向けた方策
7. 初期委員（所属）	RDUF 会員 人数は規定しませんが、できるだけ関係するコミュニティのメンバーと組んで、ご応募されることを推奨します
8. その他	自由記述　（今後集めるメンバーの想定など。）

A4 1~2枚程度にまとめてください。

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

これまでに活動した小委員会

◆データ管理計画（2017～2019）

DMPについて、共有可能な基本的考え方を整理し、DMPが扱うべき内容について、標準規格提言として取りまとめる。

◆研究データへのライセンス検討（2017～2019）

研究データの利活用においては利害関係者がデータにライセンスを付与し法的な相互運用性を明確にすることが重要である。本小委員会では研究データにどのようなライセンスを付与するのが適切かを探る。

◆リサーチデータ・サイテーション（RDC）（2019～2020）

研究データの引用について、実現を阻む課題を抽出し各種調査を行うことで、実現に向けた基礎的資料を作成する。

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

これまでに活動した小委員会

◆ジャパン・データリポジトリ・ネットワーク（JDARN）（2017～2020）

研究データを安定的に公開する為には信頼できるデータリポジトリであることが重要である。我が国のリポジトリ関係者間で共通する問題と国際標準等の先進事例を集め整理する。

◆研究データライセンス小委員会（2019～2020）

研究データのライセンス検討プロジェクト小委員会で作成したガイドラインにつき、バージョンアップに向けた論点出しを兼ねた、各分野（学術、産業、官庁等）に対する普及活動を行う。また、取りまとめた活動成果については、RDA/CODATA Legal Interoperability IG へのフィードバックを行うことで、国際貢献も視野に入れる。

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

- RDUFとは？
- これまでの活動実績
- 小委員会について
- 入会のご案内

研究データ利活用協議会
RDUF
Research Data Utilization Forum

入会のご案内

RDUFへ参加しませんか！

本協議会（RDUF）に入会すると、関連イベントなどの情報をメールでお届けします。
オープンサイエンスにおいても重要視される、
データ共有・利活用の議論に参加しませんか？
（参加費無料！）

■ 入会・詳細はこちらから
https://japanlinkcenter.org/rduf/about/index.html